

金子兜太先生のふるさと投句

第一回特選・入選作品

選者 秩父郡市俳句連盟会長

金子 千侍 先生

特選

おひざり
笈擽を脱ぎ還俗の冷やつこ

新潟市

馬場 綾子

講評

今年の秩父札所三十四ヶ寺は、十二年に一度の午歳総開帳の有難い歳です。新潟から来られた作者は、巡礼者となって秩父札所の仏界浄土を巡り、三十四番水潜寺にて結願されたのです。作品の素晴らしさは笈擽を脱ぎ巡礼者から再び還俗された。その証の表現に「冷やつこ」を食された。日本人の夏の食事の代表の一つ「冷やつこ」が還俗の表現に詠み込めた感性に脱帽です。

※笈擽とは、巡礼などが笈を負うとき、衣服の背が擦れるのを防ぐために着る単（ひとえ）の袖なし。

引いた子の手に引かれゆく遍路笠

筑西市

鈴木 ミヨ

講評

曾て、作者が若いお母さんの時、幼いお子さんの手を引いて秩父の札所参りをしたのでしょうか。そして今年の総開帳、恐らく、今度は僕が連れて行くからねと、息子さんに誘われて来られたのでしょうか。「引いた子の手」から、九十才のお母さん、今度は息子に「手を引いてもらい」お参りを済ませました。親子愛に溢れる美しい作品です。

巡礼の人踊り出す秩父の夜

さいたま市

星 輝

講評

昼は三十四ヶ寺総開帳の巡礼者となってお祈りの刻を過ぎされました。夜がやって来ましたが、たまたま皆野町の秩父音頭祭。もう、すっかり還俗して踊りの輪に加わり、ま夏夜を踊り楽しんでみましょう。何とも秩父ならではの光景です。秩父音頭の古い歌詞を紹介します。
盆だ盆だと、皆出て踊どりや、釈迦も孔子も出て踊る

入選

大人の部

かまきりの覗いてゐたる投句箱
夏の熊注意と秩父札所寺
合歡の花町中秩父音頭とし
目の奥を六月の緑おしてくる
花日和御朱印受くる列に付く
踊る娘も菩薩の如き合歡の盆
青竹の杖もありけり結願寺
秩父路や羅漢の笑顔夏帽子
富める庭貧しき庭も花盛り
汗と風心にかおる結願寺
水潜寺アジサイ色に濡れにけり
早立ちの秩父路蕎麦の花ざかり
兜太与太われはこん太ぞ青蛙
御中元姉に届ける秩父味噌
虫送り秩父音頭で果てにけり

小人の部

友と舞いちち父音どで仲ふかめ
ひぐらしの声にあわせてランニング
赤とんぼ三沢の空をおにごっこ
合歡の盆大輪花火と星月夜
町中がおはやして染まるねむの盆
盆の夜におどる兄の背まぶしいな
美の山と武甲の風にまう花火
夏の空入道雲に手をのばす
美の山の紅葉待つはどんぐり子
夜空舞う花火に負けない盆踊り
合歡の盆私も輪の中こらしよかな
春の香をおばあちゃんに供へけり
美の山に花火がさくよ音頭祭り
高原は赤いポピーのじゅうたんだ
夏まつりおどりの花さくみな町の

狭山市	古谷 多賀子
取手市	堀内 淑子
深谷市	保坂 嘉郷
小川町	吉田 和男
各務原市	星河 ひかる
伊勢崎市	川端 一美
深谷市	岩熊 史城
春日部市	松田 重信
熊谷市	金子 節子
一宮市	加藤 節子
皆野町	原 和幸
熊本市	西村 昌克
春日部市	阿部 功
秩父市	設楽 キマ
武蔵野市	池田 章子
皆野町	引間 心優 (九歳)
皆野町	関口 実怜 (十二歳)
皆野町	木内 日菜 (十歳)
皆野町	太田 凜香 (八歳)
皆野町	小笠原 美怜 (十一歳)
皆野町	萩原 穂乃香 (十一歳)
皆野町	川田 萌乃 (十歳)
皆野町	根岸 政輝 (十一歳)
皆野町	若林 翔太 (十一歳)
皆野町	大濱 世理 (十一歳)
皆野町	新井 結稀 (十一歳)
皆野町	岸 花音 (十一歳)
皆野町	山本 滉貴 (十一歳)
皆野町	新井 晴仁 (八歳)
皆野町	鈴木 啓太 (九歳)